

平成28年度

教育に関する事務の管理及び
執行の状況の点検・評価報告書

早島町教育委員会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会会議の開催	2
2	研修会及び協議会	4
III	教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況	
1	教育委員会の体制	5
2	教育委員会の点検・評価の視点	5
3	教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価	5
	① 会議の運営等	
	② 教育委員会の公開性	
	③ 基本的・総務的な事務の管理	
	④ 人的管理事務	
4	学校教育重点事業に対する評価	9
5	生涯学習重点事業に対する評価	14
IV	点検・評価に関する有識者からの意見	18
V	おわりに	20

I はじめに

1 点検評価の趣旨

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」という。)が改正され、全国の教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出し公表することが義務づけられました。

本報告書は、地教行法第26条に基づき点検及び評価を行い、その概括を報告するものです。

2 点検評価の対象及び方法

教育委員会が平成28年度に実施した事務事業のうち、主要事業について自己点検し、評価を行いました。

また、本報告書を作成するに当たっては、教育委員会に意見を求め、個々の事務事業だけでなく総合計画・基本計画の施策体系を視野に入れ、課題や今後の方向性などについてまとめました。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催

教育委員会の委員

役職名	氏名	性別	任期
教育長	徳山 順子	女	H27. 12. 26～H30. 12. 25
教育長 職務代理者	関谷 洋輔	男	H23. 9. 26～H29. 3. 31
委員	太田 浩司	男	H25. 4. 1～H29. 3. 31
委員	林 泰充	男	H26. 4. 1～H30. 3. 31
委員	森 綾子	女	H26. 4. 1～H30. 9. 30

審議案件等

開催日	議決等事項
4月26日(火)	【議事事項】 (1) 早島町教育委員会の所管する事務の管理及び状況の点検及び評価に関する報告書について(平成27年度実施事業)
5月20日(金)	【議決事項】 (1) 早島町教育委員会の所管する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について(平成27年度実施事業) 【議事事項】 (1) 平成28年度「早島町学校教育・生涯学習課の取組」について
6月17日(金)	【議事事項】 (1) 早島町人権教育基本方針について (2) 幼稚園教諭等募集について (3) 小学校授業参観・給食試食会について (4) 中学校の支援員等の配置について

7月22日（金）	【議事事項】 (1) 早島町立学校管理規則の一部改正について (2) 早島町「岡山県学力・学習状況調査の結果概要」について (3) 総合教育会議に向けて (4) 臨時職員募集について
8月26日（金）	【議決事項】 (1) 早島町立学校管理規則等の一部改正について 【議事事項】 (1) 早島町「全国学力・学習状況調査の結果概要」について
9月23日（金）	【議事事項】 (1) 義務教育学校の先進校視察について (2) 子どもと大人の意見交流会「第1回熟議」について (3) 子ども会の活性化について
10月28日（金）	【議事事項】 (1) 義務教育学校視察報告について
11月21日（月）	【議事事項】 (1) 12月補正予算について
12月16日（金）	【議事事項】 (1) 平成29年度予算要求について
1月20日（金）	【議事事項】 (1) 早島町「平成28年度学力定着状況たしかめテスト」の結果概要について (2) 子どもと大人の意見交流会「第2回熟議」について (3) 早島町小中一貫教育に向けて（「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」から） (4) 今後の行事について ・子ども議会 ・土曜授業、卒業式等

2月22日（水）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) 早島町少年善行表彰規程の一部改正について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 次期学習指導要領に向けて（「学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」から）</p> <p>(2) 不登校への対応について</p> <p>(3) 今後の行事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第3回教育のまち・はやしまフォーラム」 ・「全国地域学校協働活動推進フォーラム in 岡山」での発表
3月24日（金）	<p>【議決事項】</p> <p>(1) 早島町立幼稚園の保育料の減免に関する規則の廃止について</p> <p>【議事事項】</p> <p>(1) 平成29年度教育委員会主要事業について</p> <p>(2) 道徳郷土資料「私たちの早島 つなげ 未来へ」について</p> <p>(3) 今後の行事について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度入学式、授業公開日等

2 研修会及び協議会

開催日	研 修 会 名 等
5月9日（月）	平成28年度市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会（吉備中央町） 参加者：教育長 他2名
7月12日（火）	平成28年度岡山県市町村教育委員会連絡協議会（倉敷市） 参加者：教育長 他4名
7月29日（金）	早島町地域フィールドワーク・ESD教員研修会 参加者：教育長 他1名
10月13日（木）	義務教育学校視察（横浜市立義務教育学校霧が丘学園） 参加者：教育委員 他1名
10月20日（木）	義務教育学校視察（市川市立義務教育学校塩浜学園） 参加者：教育長 他3名
10月27日（木）	義務教育学校視察（神戸市立義務教育学校港島学園） 参加者：教育委員 他1名
11月5日（土）	子どもと大人の意見交流会（第1回熟議） 参加者：教育長 他2名
11月9日（水）	平成28年度岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会（倉敷市） 参加者：教育長 他4名
1月14日（土）	子どもと大人の意見交流会（第2回熟議） 参加者：教育長 他2名

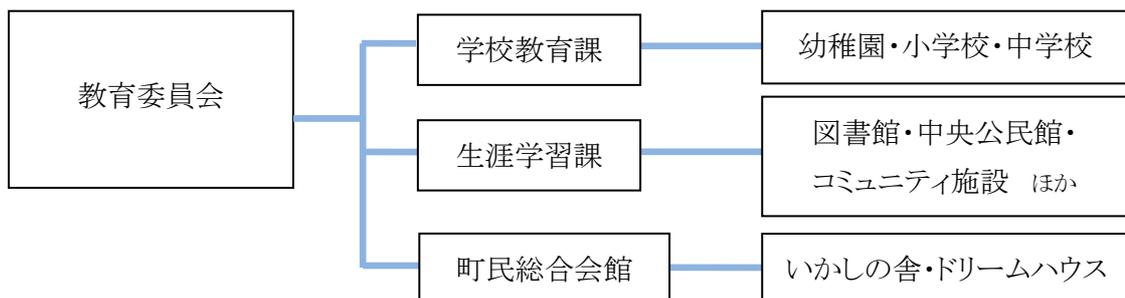
3月5日（日）	第3回教育のまち・はやしまフォーラム 参加者：教育長 他2名
---------	-----------------------------------

3 総合教育会議

開催日	議 決 等 事 項
8月26日（金）	第1回総合教育会議 【議事事項】 (1) 早島町一貫教育の推進について
11月21日（月）	第2回総合教育会議 【議事事項】 (1) 義務教育学校の視察報告について

III 教育委員会の所管する事務事業の管理・執行の状況

1 教育委員会の体制



2 教育委員会の点検・評価の視点

点検・評価を行う視点としては、次の項目を基本として行う。

点検・評価の視点	点検・評価する主な内容
① 会議の運営等	会議の回数、円滑な進行
② 教育委員会の公開性	委員会の公開、事業内容等の広報、町長等との連携
③ 基本的・総務的な事務の管理	方針・事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
④ 人的管理事務	教職員等の人事、教育委員会研修の実施

3 教育委員会が管理・執行する事務の点検・評価

- ① 会議の運営等

項 目	会議の回数、円滑な進行
目 標	会議の実施回数は年間12回を目標とし、事務局から早めに適切な情報を受け、会議運営を円滑に行うことに努めるとともに審議を深めることで、会議の充実を図る。
成 果 ・ 課 題	○開催回数は12回、総合教育会議2回で、充実した審議が行えた。 ○議案、協議事項の審議及び報告については厳正に行われた。また、事務局からの事業の進捗状況及びその他の関連事項について、委員と事務局との間で意見交換が活発に行われた。 ○学校の授業公開日には、積極的に参加して学校支援・助言に努めた。 ●事前の資料配付を求めたが、全ての会議とはいかなかった。
評 価	・毎回の教育委員会会議で、事業の進捗状況を確認し、円滑に協議を行うことができた。 ・次年度に向けて、委員会の議決案件については、引き続き事前の配付を求める。また、年間の開催日及び学期毎に学校訪問日を設定する。 ・公開授業・行事等に積極的に参加し、学校園の様子等の理解に努める。

② 教育委員会の公開性

項 目	会議の公開、事業内容等の広報
目 標	教育委員会の会議内容や実施事業等を広報誌やホームページへ掲載・公開することで、町民に教育行政に対する関心を高める。
成 果 ・ 課 題	○早島町学校教育ビジョン、はやしま学支援本部の活動等はホームページや町広報誌、教育フォーラム等で積極的に広報した。 ●教育委員会会議の概要をホームページに掲載するのが遅れた。
評 価	・学校園の取組や、はやしま学支援本部を中心とした教育活動を様々な方法で、積極的に地域住民等に広報していく。 ・会議録の公表は、会議概要をホームページ上にその都度掲載する。

項 目	町長等との連携
目 標	町長や教職員、学校運営協議会委員との情報交換を密に行うことで、改善に向けた、貴重な意見を施策に反映する。
成 果 ・ 課 題	○総合教育会議や課長会議等で、町長部局との情報交換を行った。 ○28年度から幼稚園も参画し、幼小中合同の学校運営協議会を年11回実施した。また、学校評価の項目として、幼小中共通の評価項目を作成し、経年変化が見えるようにした。また、一貫教育の視点から、学校関係者評価を年2回実施することで、学校運営の改善につなげた。 ○「教育のまち・はやしまフォーラム」を3月に開催し、「ESD持続可能な町づくりに向けて～つながろう かかわろう はやしま学園からの発

	<p>信」をテーマに、園児児童生徒や教員が地域に取組を発信するとともに、子どもによるシンポジウムを行い、大変好評であった。</p> <p>○11月と1月に「子どもと大人の意見交流会（熟議）」を実施し、児童生徒・地域住民が活発な意見交換を行うことで、地域の課題や改善等を共有することができた。</p> <p>●成果を発信する「教育のまち・はやしまフォーラム」に、より多くの住民の方に参加してもらうような工夫が必要である。</p>
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・一貫教育の推進に向けて、総合教育会議での更なる検討が必要である。 ・学校運営協議会については、文部科学省の2年間の研究指定を受け、その成果・課題をもとに、29年度は事務局を中学校に置き、全体会や3部会（学校部会・地域部会・家庭部会）を活性化させたい。 ・早島町学校教育ビジョンの推進に向けた、「教育のまち・はやしまフォーラム」は第3回を迎え、回を重ねるごとにすばらしい発信力となっている。29年度は、園児児童生徒がより主体となったフォーラムが実施できるよう計画的・継続的に取り組んでいきたい。 ・「子どもと大人の意見交流会（熟議）」は、児童生徒や地域住民から、多くの建設的な意見が出された。熟議で話し合ったことをフォーラムで地域発信し、改善に向けた共通理解を図るなど、大変有意義な会となった。

③ 基本的・総務的な事務の管理

項 目	方針・事務事業計画の計画的実施、事務改善、事業の円滑な実施
目 標	教育行政重点施策を策定し、円滑に事業が実施されているかを確認する。また、必要に応じて規則の制定・改廃を行う。
成 果 ・ 課 題	<p>○国の動向を踏まえ、教育行政重点施策の策定や、規則の改正等に向けて、充実した審議を行った。</p> <p>○義務教育学校の設置を踏まえた「学校教育法」の一部改正に伴い、今後の早島町の一貫教育の在り方について検討を行った。全国に先駆けて設置された義務教育学校3校の視察を行い、早島町の方向性を検討した。</p> <p>○整備計画では、幼稚園へのエアコン設置、保育室の床コーティング、小学校の食器洗浄器の更新、中学校の校門の改修等を行った。</p> <p>○生涯学習課の事業については、社会教育委員会において、事業評価シートで、事業の妥当性・効率性・公平性などの評価を行った。</p> <p>●公共施設のトイレ洋式化や小学校の床の改修工事が年度内にできず、繰り越した。</p>
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教室改修工事は、長期的な見通しをもち、計画的に実施する必要がある。 ・いぶき荘の畳替え、トイレ洋式化、小学校教室改修工事など、早期に計画

	<p>的に取り組んでいき、過ごしやすい環境を整備したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年後を見据えて、学校施設の計画的な改修に向けて予算化を考える。
--	--

④ 人的管理事務

項目	教職員等の人事
目標	幼稚園、小中学校の適正な人員配置を行う。
成果 ・ 課題	<p>○小学校においては、35人学級を継続し、充実した学習環境を実現した。</p> <p>○小1グッドスタートを町独自で12月まで延長するなど、必要に応じた支援員の配置を行った。</p> <p>○中学校では、図書館の活用や図書電算化の準備に向けて、学校司書として町立図書館の職員を9月から派遣し、図書館の充実を図った。また、生徒の心の居場所づくりとして、「心の教室」の充実を図るため、9月から生徒支援員を1名配置した。</p>
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における35人以下学級、小1グッドスタートの延長は、落ち着いた学級環境づくりのために、29年度も継続していく。 ・小学校英語の教科化に向けて29年度はALTの増員を行う。中学校に1名、幼稚園・小学校に1名の2名配置として、英語教育の充実を図る。 ・中学校に学校司書を配置し、電算化や図書館整備を行うとともに、読書活動の充実を図っていく。

項目	研修の実施
目標	教育委員会が主催する全学校園の教職員を対象とした研修を計画的・意図的に開催し、指導力の向上に努める。
成果 ・ 課題	<p>○年度当初に、信頼される教職員であるためのサービス研修を行い、コンプライアンスの周知徹底を図った。</p> <p>○各学校園では、OJTの充実を図り、若手教員の指導力を高めるとともに、夏季休業中には、若手教員等を対象とした学級づくり・授業づくり研修を2日間行い、教員としての資質能力の向上を図った。</p> <p>○地域フィールドワーク研修では、早島町にある自然・文化・歴史等をESDの視点で見直し、ロイロノートを活用し、早島のお宝発見ビデオを作成した。教職員の早島への愛着心や所属感を高めるとともに、生活科・総合的な学習の時間の教材研究を深めた。</p> <p>○道徳の教科化に向けて、全国的な講師を招聘し、道徳の授業づくりの基礎基本や中心発問のあり方・道徳資料の分析等を行い、「考える道徳」の授業づくりへの意欲を高めた。また、郷土資料「私たちの早島 つなげ 未来へ」の冊子（児童生徒用、教師用）と、アナウンサーによる音読CDを作成し、全学校園に配付した。</p>

評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳やE S D等を中心とした、先進的な内容を計画的・継続的に実施することで、幼小中学校12年間を見据えた教育課程づくりの基盤となった。 29年度は、保育園の職員にも積極的な参加を呼びかけ、保幼小中一貫教育としての取組をさらに充実させたい。 ・不祥事防止や指導力向上に向けて、学校園と連携して、心に響く研修を積み重ねたい。
-----	--

4 学校教育重点事業に対する評価

○数値目標

項目	県現状	県目標値 (H32)	早島小		早島中		
			H27	H28	H27	H28	
全国学力・学習状況調査(平均正答率)の全国平均との差	【小6】 国A:▲0.3 国B:▲0.3 算A:▲0.4 算B: 0.1 【中3】 国A:▲0.9 国B:▲2.7 数A:▲1.9 数B:▲2.7 (▲マイナス)	10位以内(県) 各科目とも+3ポイント以上(町)	【小6】 国A:▲0.3 国B: 2.9 算A: 2.7 算B: 0.4	【小6】 国A:▲0.4 国B: 0.5 算A:▲0.2 算B: 3.3 (▲マイナス)	【中3】 国A:▲1.5 国B:▲3.4 数A:▲0.3 数B:▲2.3	【中3】 国A: 1.3 国B: 2.4 数A: 4.3 数B: 6.1 (▲マイナス)	
学級がうまく機能しない状況が発生している学級数	11学級	9学級	0	1	0	0	
小中学校における不登校の出現割合(児童生徒1千人当たり)	13.3人	9.6以下	6.5人 ※(5人)	6.3人 ※(5人)	18.0人 ※(6人)	29.6人 ※(10人)	
「授業の内容はよくわかる」と回答した児童生徒の割合(小6中3対象)	小6	79.5%	81.0%	80.5%	80.9%	80.4%	81.9%
	中3	72.0%	72.0%				
スマホを平日3時間以上利用する児童生徒の割合(小6中3対象)	小6	13.9%	5.0%	5.0%	6.4%	19.2%	7.2%
	中3	23.9%	10.0%				
授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合(小6中3対象)	小6	68.6%	71.0%	61.9%	69.9%	59.7%	64.8%
	中3	57.2%	70.0%				
「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合(小6中3対象)	小6	67.9%	71.0%	74.6%	62.7%	47.7%	50.5%
	中3	44.9%	47.0%				
「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合(小6中3対象)	小6	42.9%	50.0%	33.9%	36.5%	5.6%	13.5%
	中3	20.7%	25.0%				

「人が困っているときは、進んで助けている」と回答した児童生徒の割合（小6中3対象）	小6	39.6%	50.0%	—	42.1%	—	31.5%
	中3	36.2%	50.0%				
1週間の総運動時間数が60分未満の児童生徒の割合（小5、中2対象）	小5男子	5.7%	5.2%	12.9%	0%	4.8%	3.8%
	中2男子	7.1%	5.8%				
	小5女子	10.5%	11.0%	14.1%	0%	35.4%	21.6%
	中2女子	20.7%	21.2%				

○重点事業

重点項目	小中一貫教育の推進
目的	確かな学力と豊かな人間性、健やかな健康・体力を備え、地域とつながり、未来を拓く、はやしまっ子の育成に資するよう一貫教育の推進を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査、岡山県学力・学習状況調査に加え、町独自で小4～中3を対象に学力調査を行い、その結果を分析し、授業改善等を行う。 ・「目指す子ども像」を共有し、発達段階に合わせてカリキュラムの再構築に取り組む。
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○学びの質や深まりに焦点をあて、子どもたちがより主体的に学習に取り組むための効果的な指導法や幼小中合同で12年間を見通した研修を行い、教員の指導力向上を図った。 ○生活科・総合的な学習の時間の小中連携カリキュラムを見直した。 ○「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査結果を踏まえ、具体的な改善策に取り組んだ。 ○読書習慣づくりや家読書に、家庭との連携のもと、保幼小中が一体となって取り組んだ。 ●学力・学習状況調査結果から、同じようなつまづきが繰り返し起こっている傾向が見られるため、全学年での情報連携・行動連携に取り組む必要がある。 ●探究活動の質の向上や思考力を高めるために、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた不断の授業改善に取り組む必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの質や深まりに焦点をあて、各教科・道徳・総合的な学習の時間等において子どもたちがより主体的に学習に取り組むための効果的な指導法について講師を招聘し、参画型の研修会を実施する。 ・国の研究指定を受け、ESDの視点を踏まえた探究活動の質の向上・カリキュラムの再構築に学校園が一体となって取り組む。 ・県・全国調査に加え、小学4年生～中学2年生（理科・社会）、中学3年生（理科・社会・英語）の町学力調査を行い、児童生徒の学力を把握・分析し、教育指導の成果と課題を検証し、経年比較を行うとともに、全教職員で改善策を徹底することで教育効果を高める。

重点項目	早島町学校教育ビジョンの充実
目的	地域とつながり未来を拓く子どもの育成に向けて、保幼小中の一貫した教育を進める。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じた「目指すべき子ども像」を明確にして、教員の指導力・授業力の向上を図る。 ・放課後・土曜はやしま塾、漢字検定・英語検定、英会話塾・国際塾等を企画・運営し、学校外での子どもたちの学びの場を提供する。
成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○早島町学校教育ビジョン推進委員会を中心に、保育園・幼稚園・小学校・中学校が「めざす子ども像」を共有し、情報連携や園児・児童生徒の交流を深めた。 ○「協働・協学・協育」の町づくりを目指し、学校の教育活動の再構築を行った。また、はやしま学支援本部を設置し、教育支援コーディネーターを中心に、社会教育でははやしま学の活動について企画・運営を行った。 ○児童生徒の地域での学びの機会を保障するため、放課後・休日のはやしま塾、や国際塾を開催した。10月から新たに、土曜 Enjoy English Juku を開催し、英語に慣れ親しむ機会を設定した。 ○英語で表現豊かにコミュニケーションをしようとする力の育成を目指して1月に英語暗唱コンテストを開催し、小中学生11名が参加した。 ●早島町学校教育ビジョン推進委員会をミドルリーダー育成に向けて取り組み、様々な視点から意見交流ができたが、校内での情報連携をさらに深める必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後・土曜はやしま塾、土曜 Enjoy English Juku、はやしま国際塾、ロゲイニング等の更なる工夫を行い、子どもたちの学びや体験の場を保障する。 ・教育支援コーディネーターを中心とした支援体制のもと、大学生や留学生の活用、地域住民、保護者による「早島っ子サポートボランティア」の人材確保に努める。 ・環太平洋大学等の留学生と交流の場を広げ、早島から世界に視野を広げるきっかけづくりを行う。 ・「ボランティア・パスポート」を活用し、生徒の社会貢献意識を高め、地域行事への積極的な参加を促す手だてを工夫する。

重点項目	不登校対策事業の継続
目的	不登校児童生徒への対応と未然防止を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校対策担当者会議などを継続的に開催し、長期欠席・不登校児童生徒の減少を目指す。 ・早島町適応指導教室（ふれあい教室）等の充実や、スクールカウンセラーの

	効果的な活用、教育相談の充実を図り、生活リズムの改善や学校への登校を促すようサポートする。
成 果 課 題	<p>○欠席3日までの取組やきめ細かなかわりを周知徹底したため、小学校では長期欠席児童が、27年度末13名から28年度末8名に減少した。また休みがちな児童が、ふれあい教室に通室できるようになった。</p> <p>○中学校では、ふれあい教室に通室していた生徒5名が給食登校し、心の教室を利用したりすることができた。</p> <p>○小学4年生～中学3年生まで年2回実施するhyperQ-U調査の活用により、児童生徒一人一人の多面的理解や学級集団への所属感などを把握し、特に小学校では具体的な手だてが教育効果を高めた。</p> <p>●中学校では、長期欠席・不登校生徒の増加が見られた。昨年度と比較してスクールカウンセラーの保護者・生徒の活用頻度は高くなったが、hyperQ-U調査の効果的な活用やケース会議の充実など、学校全体で更なる改善に取り組む必要がある。</p>
今 後 の 方 向 性	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室（ふれあい教室）に支援員を週5日配置し、学校との連携を深め、不登校児童生徒の生活リズムの改善や学校への登校をサポートする。 ・不登校対策担当者会を2か月に1回実施し、登校支援員、担当教員及び教育委員会が、「新たな不登校を生まないための校種間連携の充実」をテーマに保幼小中の情報を共有し、講師を招いて研修することで、不登校児童生徒の早期解消、未然防止に徹底して取り組む。 ・町で「不登校親の会」を開催し、個別相談や保護者会を通して、子どもへの思いや願い、学校への期待を聴き取り、保護者支援・学校支援を行う。 ・小学校の登校支援員を2名にして、きめ細かな支援を行うとともに、小中学校ともスクールカウンセラーの効果的な活用に取り組む。

重点項目	学校におけるICT教育の推進
目的	ICTの活用により、児童生徒の学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における情報指導員の配置を継続する。 ・授業の中で利用する電子黒板付きプロジェクターを更新する。 ・中学校に導入したiPadを、授業等で有効活用する。
成 果 課 題	<p>○小中学校とも、デジタル教科書の使用を通して、視覚的效果を高めるなど、授業の中でICT機器を積極的に活用し、児童生徒の学習意欲を高めた。</p> <p>○教員がiPadを使用し、情報収集や記録をまとめるなど、地域フィールドワーク研修で、必然的に活用方法を学ぶ研修に取り組んだ。</p> <p>○全児童生徒に、電子教材のパスワードを渡し、自学自習の力を育み、家庭学習の充実を図る。</p> <p>●全教職員が、ICT機器を活用した、具体的な指導法を学ぶ機会を設定する</p>

	必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における情報指導員の配置を継続する。 ・ICT機器の効果的な利活用について研究推進する。特に、児童生徒の学び合いがICT機器を媒介として効果的に活用できる授業工夫を行う。 ・ペーパーレスの職員会議やコラボノートの活用など、ICT機器の活用を通して、児童生徒と触れ合う時間を確保する。 ・小学校段階におけるプログラミング教育の実施に向けて、教職員研修の実施や、情報教育推進に向けたリーダーの育成を行う。

重点項目	小学1年生グッドスタート事業の補充
目的	小学校へ入学する児童の生活習慣や基礎学力の向上を支援する。
計画	支援員を配置する期間について、町費で4月～12月まで配置する。
成果課題	○支援員を各学級に配置することで、児童一人一人が安心して過ごすことができる環境を整えることができた。
今後の方向性	・小1プロブレムの解消のため、継続した配置を行っていく。

重点項目	グローバル人材の育成
目的	英語に慣れ親しんだり、英語をツールとして、間違いを恐れずに、自分の意見や考えを表現するなど、国際人としての基礎を培う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校にALT（外国語指導助手）や外国語活動講師を配置する。 ・小学校での英語の教科化を見据えて、英語授業の改善を図る。 ・町で、無料英会話塾や、英語暗唱コンテストを開催する。
成果課題	<p>○幼稚園での英語でダンスや、小学1年生からの外国語活動を通して、英語での会話に慣れ親しんできた。</p> <p>○土曜 Enjoy English Juku の開講や、英語暗唱コンテストの実施により、地域で生きた英語にふれる機会を設けた。審査員や講師をすべてALTにすることで、英語を使う必然性を設けた。</p> <p>●小中連携の英語授業のカリキュラムを構築する必要がある。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・英語に慣れ親しみ、スピーキング・リスニング能力の基礎を培うため、ALTを小学校（幼稚園含む）に1名配置するとともに、英語をツールとしたコミュニケーション能力の育成を図るため、中学校に1名配置する。 ・小中連携として、中学校の教諭が小学校で英語の授業を行うなど、外国語活動の充実を図る。 ・環太平洋大学の留学生とのロゲイニングや、英語・母国語での絵本の読み聞

	<p>かせ、幼稚園でのダンス&イングリッシュ等を通して、異文化理解や世界に視野を広げる場の設定をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語暗唱コンテストや、ALTを活用した英会話塾の充実を図る。
--	---

重点項目	幼稚園預かり保育事業の充実
目的	幼稚園保護者の子育て支援を行う。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の支援員を配置し、幼稚園の開園時間以外の預かり保育を行う。 ・園児の人数が増加すれば、支援員を1名増やす。
成果課題	<p>○預かり保育では、1日概ね50人を預かった。</p> <p>○支援員を2名にしたことで、支援が充実した。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・早島町の子育てを充実させるために、預かり保育の支援員を継続的に配置し、預かり保育の充実を図る。

5 生涯学習重点事業に対する評価

重点項目	講座・教室の充実
目的	地域住民の自己研鑽の場を提供するとともに、その成果を地域に活かす生涯学習リーダーを育成する。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・「まなびの舎」の講座数を充実させて実施する。 ・ESDの視点を含め、現代的・社会的課題に対応した講座を企画する。
成果課題	<p>○受講生には有意義な講座になっていて、好評である。</p> <p>○30単位以上取得した人が21名、うち1名は100単位以上取得した。</p> <p>●27年度から実施している「まなびの舎」講座が地域住民の方に、まだ浸透していないため、様々な方法で広報をする必要がある。</p>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・歴史・ESD（ふるさと）の3分野での講座内容の更なる充実を図る。 ・「大人はやしま塾」として取り組んでいる「学びの舎」講座について、子どもが参画できる講座に、子どもの参加を募る。 ・「まなびの舎」講座のPRのためにも、募集だけでなく、実施の様子などを広報やホームページ等で紹介する。 ・30単位以上取得された方の講座の企画・運営への活用方法を検討する。 ・伝統産業である花ござの手織り技術を学び、保存・継承する人材を育成するために、花ござ手織り教室（10回）を開催する。

重点項目	地域ぐるみによる教育支援体制の充実（早島っ子応援事業）
------	-----------------------------

目 的	学習支援や体験活動を中心とした「はやしま学」を通して、地域ぐるみの教育支援体制を築きながら、郷土愛を育み、社会貢献意識を高める。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後・休日等を利用した、学習塾や英会話塾、科学教室等を開催する。 ・町探検のロゲイニングを小学校と協働して行う。 ・夏休みワクワク子ども教室（10日間）の工夫を行う。 ・地域の方や大学生が、スタッフ・講師として参加するなど、地域ぐるみで子どもを育てる支援体制の充実を図る。
成 果 ・ 課 題	<p>○はやしま塾や国際塾、科学教室、10月から英会話塾のスタートなど、工夫した内容で、多くの児童生徒が参加した。</p> <p>○夏休みワクワク子ども教室は、英会話や読書、宿題、新聞づくりなど、充実した10日間となった。</p> <p>○小学校の先生、小学校PTA、児童とともにロゲイニングを行い、先生・保護者と一緒に、早島の新たな魅力の発見を共有した。</p> <p>○学校と連携することで、英語検定・漢字検定への参加が増加した。</p> <p>●様々な活動への参加人数を増やすために、各活動内容の広報に取り組む必要がある。</p> <p>●サポートボランティアの登録システムを策定したが、地域の方のボランティアの拡充が課題である。</p>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ロゲイニングをグループで協働して実施するだけでなく、その後のまとめについて、発表会や掲示をするなどして、郷土理解や郷土学習につなげたい。 ・活動内容を町広報誌等で広く知らせ、参加人数を増やしたい。 ・各大学に出かけての学生ボランティアの広報や、地域での大人ボランティアの広報に努めることで、ボランティア人数を確保したい。 ・就学前の子育て支援ひろばなど、家庭教育力の向上を図るための場づくりを行う。

重点項目	健康づくりとスポーツ活動の推進
目 的	町民の運動習慣の確立に努め、健康づくりを推進する。
計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操、ウォーキング講習会を開催する。 ・気軽に楽しめるニュースポーツ教室を開催する。

成 果 ・ 課 題	<p>○「スラックライン」というニュースポーツ体験会を実施し、親子でスポーツに触れる時間をつくることができた。</p> <p>○町民運動会やソフトボール大会など、スポーツを通しての地域住民の交流が活性化した。</p> <p>○矢尾グランドゴルフ場や深砂テニス場をはじめ、グランドゴルフやテニスに取り組む人が増加した。</p> <p>●ラジオ体操コンテストへの参加も増え、啓発については順調に進んでいるが、「正しいラジオ体操」を身につけてもらうために講習会を開催する必要がある。</p>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招き、「正しいラジオ体操」の講習会を開催し、より健康づくりに効果のある「ラジオ体操」の普及に努める。 ・親子でのスポーツ体験や、年齢・性別を問わず、楽しめるボルダリングやスラックライン等のニュースポーツを紹介していく。 ・町内外を巡るウォーキングの楽しさを普及する。

重点項目	町制施行120周年記念事業の開催
目的	町制施行120周年を祝うとともに、町の歴史や先人の生き方を振り返り、現状を見つめ、未来の早島を創造する。
計画	<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつりや運動会、町の歴史写真展など、地域に誇りや愛着がもてるよう、工夫した内容で実施する。 ・生涯学習まつりは、住民提案事業も含め、コミュニティ形成の啓発・活性化を目指し、内容の充実に努める。
成 果 ・ 課 題	<p>○大きなイベントについては予算も拡大され、盛大に実施できた。</p> <p>○28年度の「早島歴史紀行」に引き続き、町制施行120周年記念として、写真集「レンズの中の早島」を発行し、町内外から反響があった。</p> <p>●生涯学習まつりの目的の周知や他課との連携を図る必要がある。</p>
今後の 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・写真集「レンズの中の早島」は、各図書館や学校園にも配付し、教職員・園児・児童生徒が触れることができるようにする。また、「早島歴史紀行」は地域住民からの要望もあり、29年度は増刷して販売する。 ・町制施行120周年記念事業の住民提案で、新しく生まれたコミュニティもあり、今後の事業改善につなげていきたい。

重点項目	社会教育施設使用料の検討
目的	平成29年4月1日の消費税増税を見据えた使用料の増額と町内・町外利用者の使用料を見直す。
計画	・他市町村の使用料を調査・検討する。
成果 ・ 課題	○社会教育委員会で、近隣の調査結果を報告し、意見交換した。 ○様々な意見を聞く中で、広域交流の視点から現状維持がよいという意見や、町内外で使用料に差をつけるなどの意見が出た。
今後の 方向性	・広域交流の視点や運営面も考慮しながら、地域性を見据えて検討する。

重点項目	ボランティアパスポートの活用
目的	中学生がボランティア活動を通じて、地域社会に出て様々な体験をすることで、新しい自分を発見する。
計画	・中学生全員にボランティアパスポートを配付し、ポートフォリオとして活用することで、社会貢献意識を高めていく。 ・夏ボラ（社会福祉協議会）をはじめ、自治体や行政等で、中学生が活躍できる場をできるだけ多く提供する。 ・15ボラン以上を貯めた生徒を表彰する。
成果 ・ 課題	○7ボラン以上を貯めた生徒をわかば賞に推薦し、表彰した。 ○町行事などで地域の一員として積極的に活動する中学生ボランティアの姿に、地域住民からも賞賛の声が聞かれた。 ●さらに多くの中学生が、自分のできることを、自分の可能な時間で、ボランティア活動に取り組めるよう、保護者や地域住民の温かい励ましや活動の場の提供が必要である。
今後の 方向性	・ボランティア活動への参加を促すため、ボランティア募集のチラシ等を中学校から配付し、教職員や保護者と連携して進めていく。

IV 点検・評価に関する有識者からの意見

岡山大学大学院 准教授 村松 敦

教育委員会活動について

家事の手伝いをしようと思っていたときに「家事を手伝いなさい」と言われたとたん、やる気が失せてしまうことがあります。自分の意志で行動する指し手意識、その結果に手応えを感じる効力感が人の行動を強化します。つまり、地域住民や保護者、子ども、町内に勤務する教職員の当事者意識を高めることが、学校教育ビジョンはもちろん持続可能な町づくりの推進には欠かせません。それは、広く様々な立場の方々が熟議することでゴールイメージを創り上げ、その実現に向けた計画をまとめるとともに、関係者が役割を分担して実行し、進捗を絶えず確認し改善することで実現します。

当教育委員会が、月 1 回以上の頻度で教育委員はもちろん町長や学校関係者、地域住民の代表や学識経験者、そして昨年度は子ども達を含めて様々な立場の方々を集め、熟議を重ねてこられたのは、当事者意識を高める上で欠かせないことであり、その努力に深く敬意を表します。

また、義務教育学校について先進校視察を踏まえて総合教育会議などで議論することは、未来を拓く人づくり町づくりのイメージを明確にするとともに、教育委員会が管理・執行する事務の行動を強化するはずで。たとえば、学校園の施設・設備の改修や教職員の配置は、一体型にせよ併設型にせよ義務教育学校という制度への移行を見据えて行わなければなりません。当町が教育の町を標榜し、長年にわたり一貫教育を追究している以上、当教育委員会や地域住民が一体型の義務教育学校を模索するのは必然です。

今後は、こうした会議や種々の取り組み状況を広報誌やホームページによって公開するだけでなく、行事を通じて地域住民やその代表からも意見をもらうようにしたりアンケートをとったりすること、SNSを通じた双方向のやりとりなど、より多くの方々に対する説明と意見聴取の方法を工夫することで、地域住民や保護者、子ども、町内に勤務する教職員が当事者意識をもって未来を拓く人づくり町づくりと向き合うことが大切だと思います。

学校教育について

「学校教育ビジョン」ができたことでゴールイメージとその実現に向けた計画がはっきりしましたが、道徳郷土資料の作成や地域フィールドワークなどに幼小中の教職員が協働して取り組むことは、地域とつながる早島っ子を一貫して育てる当事者意識を高める上で欠かせないことであり、関わった皆さんの努力に深く敬意を表します。

また、学校運営協議会に幼稚園を加え、幼小中で共通した評価項目を作成したことや、次年度に事務局を学校に移すことも、一貫教育に対する当事者意識を高めることにつながると思いますが、人的配置や情報化の推進などによる負担感の軽減にも配慮してください。

ただ、不登校については、予断を許さない状況です。「新たな不登校を生まない校種間連

携」による誰もが行きたくなる潤いあふれる一貫教育が、地域に誇りと愛情をもつ子どもの育成につながることを期待しています。

生涯学習について

「学校教育ビジョン」では、子どもと学校を中心において、全ての町民が学び合い、育ち合う環境をつくることで、“協働・協学・協育”の町づくりを進める一とうたっています。

小学生と教員、保護者が共に町探検ロゲイニングを楽しむことで「はやしま」の再発見につなげたり、中学生にボランティアパスポートを配付することで多感な中学生の新たな自分探しを促したり、子どもと学校を中心にした活動は、子ども達の町づくりに対する当事者意識につながったことでしょうし、そこに関わった大人の人づくり町づくりに対する当事者意識につながったことでしょう。こうした活動で「まなびの舎」の講座で学んだ地域の皆さんが活躍できると持続可能な好循環が生まれるかもしれません。

また、放課後・土曜はやしま塾、はやしま国際塾に加え、土曜 Enjoy English Juku が開催され、大学生や留学生の力も借りて学校外に多様な学びの場ができました。英語検定や漢字検定に加え、英語暗唱コンテストといった学んだことの手応えを実感できるようにすることが、子どもはもちろん関わった大人達の効力感につながることを期待しています。

今後に向けて

教育委員会が管理・執行する事務・事業は多岐にわたりますが、だからこそ選択と集中によって限られた予算・時間・人などをうまく使う必要があります。その基準は、どんな人づくりや町づくりを目指すのかを様々な立場の方々が熟議を重ねて創り上げた「学校教育ビジョン」の具現化であってほしいものです。

事務・事業を効果的に実施するためには、「何を、どこまで、いつまでに」達成するか、できる限り数値目標や期限設定(工程表)を定めておく必要があります。小中学校を一つの学校にする義務教育学校について議論する段階から、「何を、どこまで、いつまでに」実現するかを定める時期を迎えようとしているのではないのでしょうか。

乗り越えるべき課題は少なくないでしょうが、県下に先駆けた取組は、そこに勤める教職員、そこで学ぶ子どもたち、そして地域の誇りとなるでしょう。特に、政令指定都市の岡山市と中核市の倉敷市に挟まれた早島町にとって、新たな学校を立ち上げる過程や開校後の取り組みを通して、教職員や子どもたちが鍛えられ成長していくことが見込まれれば、周辺の市町から優秀な人材が集まることを期待できます。

今後は、本稿で述べた教育委員会活動をはじめとする諸事務・事業に対する意見を参考にさせていただき、「学校教育ビジョン」の着実な実施を期待しています。

V おわりに

本年度の点検・評価につきましては、事前に教育委員会が立てた方針・目標に沿って、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後に評価したものです。各事業の目的・計画を掲げ、それに対する成果と課題、今後の方向性を記載しています。それをもとに、岡山大学大学院の村松敦准教授から、点検・評価につきまして、ご意見をいただき、今後の方向性についてのご示唆をいただきました。

この3月には、2030年頃の社会のあり方を見据えて、次期学習指導要領が示され、小学校高学年での英語の教科化や、小中学校での道徳の教科化などが明示されました。こうした国の動きや現状を踏まえて、持続可能な早島の教育の充実を図ってまいります。

これに先駆け、本町では、平成25年10月に中長期的な見通しをもった「早島町学校教育ビジョン」を策定し、「地域とつながり未来を拓く早島っ子」の育成に向けて、「保幼小中の連携強化と小中一貫教育の推進」、「町民とともに学び地域を考えるはやしま学の実施」、「学校園と地域が連携し早島っ子を育てる仕組みの拡充」を3つの重点項目に掲げ、平成27年度から、早島町第4次総合計画に合わせて、「早島町学校教育ビジョン」を全面実施し、「教育のまち・早島」宣言を行うとともに、その具現化に向けて取り組んできているところです。

こうした中、小学生を対象とした、町探検ロゲイニングや子ども教室、小中学生を対象とした、土曜 Enjoy English Juku やはやしま塾、郷土道徳資料「私たちの早島 つなげ 未来へ」の作成、地域フィールドワーク教員研修など、生涯学習課と学校教育課との融合のもと、生涯学習に向けた「協働・協学・協育」の町に。一步ずつ前進しているものと確信しています。

また、文部科学省の研究指定を受けて、幼小中学校合同の学校運営協議会の実施、幼小中一貫教育に向けて、教育課程の充実や教員研修の充実を図るなど、本町のこれからの一貫教育のあり方について、様々な視点から検討し、学校教育ビジョンの基盤をつくってきました。

29年度は、学校教育ビジョンの更なる実現に向けて、教育施策や活動事業の点検・評価に、エビデンスを大切にして、数値から見える現状をきちんと分析・検証するとともに、まずは、施設分離型で小中一貫型教育を進めていくうえで、「何を、どこまで、いつまでに」するのかを明確に示したうえで、小中一貫型教育にふさわしい運営体制を整え、一体的な教育課程の編成に着実に取り組んでいきたいと思えます。そして、「早島町の子どもたちの成長のために」を合言葉に、常に先を見据えて、PDCAサイクルをスパイラルに回しながら、教育行政を計画的に進めてまいります。